

市では市政への理解を深めていただくため、「豊橋市財政状況の公表に関する条例」に基づき、年2回財政状況を公表しています。今回は平成18年度予算の執行状況などを、一般会計・特別会計・企業会計に分けてお知らせします。

数値などは平成19年3月31日現在のものです、決算とは異なります。

問合せ先 財政課

☎51・2117 55・6385

✉ zaisei@city.toyohashi.lg.jp

特別会計ってなに？

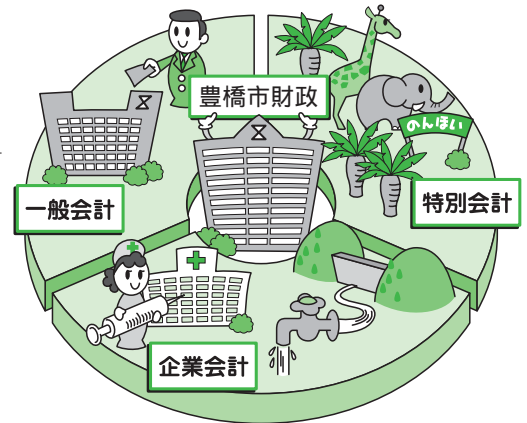
特別会計とは使用料など特定の収入で特定の事業を運営する会計のことで、一般会計と区別して収支経理を行っています。

会計名	予算額	収入済額	収入率(%)	支出済額	支出率(%)
競輪事業	138億 94万円	139億 455万円	100.8	135億5,542万円	98.2
国民健康保険事業	306億1,550万円	270億4,661万円	88.3	288億6,808万円	94.3
総合動植物公園事業	14億5,300万円	3億5,763万円	24.6	13億2,022万円	90.9
公共駐車場事業	2億8,400万円	2億6,317万円	92.7	1億9,805万円	69.7
地域下水道事業	16億8,900万円	5億6,429万円	33.4	11億 556万円	65.5
老人保健	251億5,410万円	211億9,039万円	84.2	231億4,612万円	92.0
母子寡婦福祉資金貸付事業	3,500万円	3,822万円	109.2	2,918万円	83.4
介護保険	144億1,388万円	117億8,170万円	81.7	129億8,752万円	90.1
土地区画整理換地清算費	40万円	26万円	65.0	2万円	5.0
合計	874億4,582万円	751億4,682万円	85.9	812億1,017万円	92.9

本市には9つの特別会計があり、市予算額の約4割を占めています。なお、総合動植物公園事業や地域下水道事業では、一般会計からの繰入金などを5月末に収入することから、この時点での収入率が低くなっています。

各特別会計の主な収入・支出（収入 収 支出 支）

- 競輪事業 収 勝者投票券売上金 支 勝者投票券払戻金、選手賞金
- 国民健康保険事業 収 国民健康保険税、国庫支出金 支 療養給付費
- 総合動植物公園事業 収 入園料、遊具使用料、一般会計繰入金 支 施設管理委託料、公債費
- 公共駐車場事業 収 駐車場使用料 支 施設管理委託料、公債費
- 地域下水道事業 収 下水道使用料、県支出金 支 施設の建設費
- 老人保健 収 支払基金交付金、国庫支出金 支 医療給付費
- 母子寡婦福祉資金貸付事業 収 貸付金元利収入 支 貸付金
- 介護保険 収 介護保険料、国庫支出金 支 介護保険給付費
- 土地区画整理換地清算費 収 土地区画整理換地清算金 支 一般会計繰入金



これが豊橋市の財産です（H19.3.31現在）

土地増加分(6.7%)は主に最終処分場用地購入や県企業庁からの明海緩衝緑地の無償譲渡によるもので、建物増加分(0.6%)は主に植田住宅代替によるものです。

()は前年比



土地
8,002,625㎡
(6.7%増)

建物
1,161,384㎡
(0.6%増)



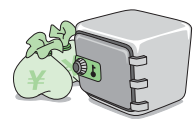
有価証券(株券)
22億2,023万円
(0.4%減)

債権(貸付金など)
26億950万円
(11.6%増)



出資金・出捐金
16億4,751万円
(0.2%減)

主なもの
豊橋ステーションビル、豊川水源基金、
豊橋市国際交流協会など



基金
163億1,736万円
(0.2%増)

主なもの
財政調整基金、大規模事業推進基金、
河原福祉基金など

平成18年度 財政公表

一般会計ってなに？

一般会計は本市予算の中心となるもので、民生費・土木費・教育費・衛生費など、行政を運営するための基本となる諸経費を主なものとした会計です。

収入		
内訳	収入済額	収入率(%)
市税 図1	598億8,132万円	99.5
国庫支出金	93億6,516万円	80.5
地方消費税交付金	37億6,513万円	102.9
地方譲与税	37億4,349万円	86.7
県支出金	31億5,565万円	75.5
諸収入	30億 327万円	91.4
使用料及び手数料	26億8,430万円	91.7
その他(市債 図2など)	91億3,459万円	41.3
予算額	1,123億2,928万円	
収入済額	947億3,291万円	収入率 84.3%

市には市民税や固定資産税など皆さんから納めていただく市税をはじめ、さまざまな収入があります。近年では、国庫支出金、地方交付税、税源配分を見直す三位一体改革の進展などにより、市の収入については厳しい状況が続いています。

国庫支出金 国から市が行う事業への負担金や補助金などとして交付されます。

地方譲与税 本来は地方に属する税ですが、徴収の便宜などから国に徴収してもらい、一定の基準によって地方に譲与される税です。

収入率 予算額に対して平成19年3月31日現在で収入済となった割合です。5月31日までは出納整理の収入がありますので決算とは異なります。

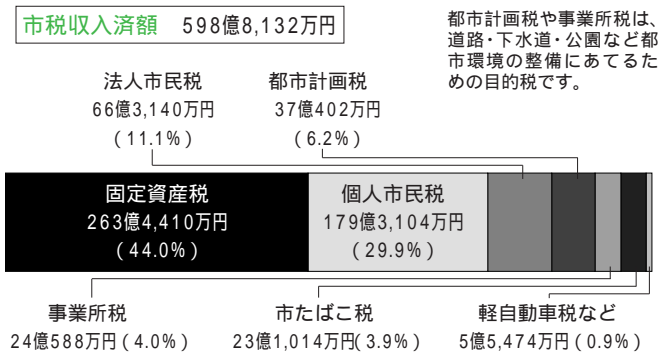
支出		
内訳	支出済額	支出率(%)
民生費	249億7,975万円	79.1
土木費	154億4,635万円	74.1
公債費 図2	107億6,326万円	93.5
教育費	106億3,752万円	79.2
衛生費	100億2,892万円	67.6
総務費	71億3,692万円	69.6
消防費	36億1,819万円	95.1
その他(商工費など)	53億7,299万円	88.6
予算額	1,123億2,928万円	
支出済額	879億8,390万円	支出率 78.3%

市民サービスの向上のため、目的別にさまざまな経費として支出しています。主な内容は次のとおりです。

- 民生費 児童福祉・高齢者福祉など
- 土木費 道路・公園の整備など
- 公債費 市の借り入れたお金の返済金(元金と利子)
- 教育費 学校の整備、生涯学習の推進など
- 衛生費 保健事業・環境対策など
- 総務費 戸籍、国際交流事業など
- 消防費 消防、救助、救急活動など
- その他 商工費・農林水産業費など

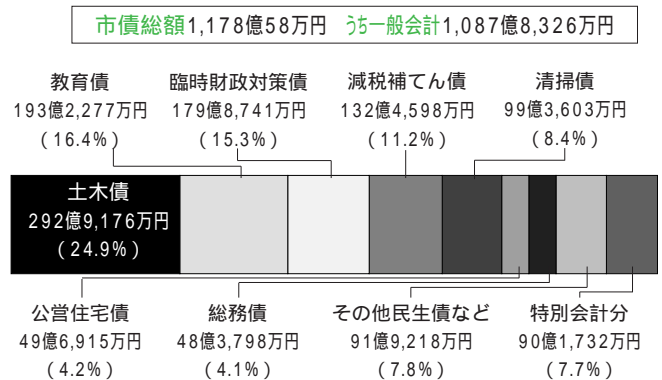
支出率 予算額に対して平成19年3月31日現在で支出済となった割合です。5月31日までは出納整理の支出がありますので決算とは異なります。

図1 市税収入の状況 (H19.3.31現在)



平成19年3月31日現在の市税収入は、598億8,132万円で、一般会計の6割以上を占めており、最も大切な財源となっています。平成18年度においては、固定資産税は土地・家屋の評価替えにより減少したものの、個人市民税は税制改正により、法人市民税は景気の回復により増加し、全体として増加傾向にあります。

図2 市債の状況 (H19.3.31現在高) 企業会計を除く



市債は、将来にわたり皆さんが利用する道路や公園、学校などを整備するときに市が国などから借り入れるお金のことで、返済は公債費として長期間にわたって行うこととなりますので、市では将来の財政負担が大きくなるように慎重に事業を選択し、計画的な借入れを行っています。

企業会計ってなに？

企業会計とは独立採算制を原則とする会計で、水道料金や下水道使用料、診療収入などにより運営しています。
ここでは予算の執行状況と貸借対照表、損益計算書により各企業の財政状況などを紹介します。

水道事業

給水人口 37万9,032人
給水戸数 15万3,189戸
普及率 99.31% (増減なし)

下水道事業

排水人口 26万5,143人
排水面積 4,178ヘクター
普及率 69.47% (0.01ポイント減)

病院事業

入院患者数 延べ28万9,263人
外来患者数 延べ57万8,152人
(入院1.54%増、外来0.37%増)

()は前年比

予算の執行状況

企業会計は、収益的収支と資本的収支で成り立っています。なお、資本的収入が資本的支出に対し不足する場合は、内部留保資金を補てん財源として補てんします。

< 収益的収支 >

企業の経営活動に伴い発生する収入(収益)とそれに対応する支出(費用)です。

収入の主なもの

水道料金、下水道使用料、診療収入

支出の主なもの

職員人件費、施設の維持管理費、支払利息、固定資産の減価償却費

< 資本的収支 >

施設や設備の整備拡充・改良を行うための収入および支出です。

収入の主なもの

企業債、一般会計出資金、負担金

支出の主なもの

資産の取得費、企業債の元金償還金

(消費税込み)

会計名	区分	予算額	執行額
水道事業	収益的	収入	63億7,900万 円
		支出	67億1,900万 円
	資本的	収入	10億7,840万 円
		支出	33億7,940万 円
		補てん財源	23億 100万 円
			16億3,668万9,090円
下水道事業	収益的	収入	69億5,800万 円
		支出	67億4,700万 円
	資本的	収入	51億2,260万 円
		支出	73億3,380万 5千円
		補てん財源	22億1,120万 5千円
			19億7,011万1,916円
病院事業	収益的	収入	210億3,148万 円
		支出	218億9,148万 円
	資本的	収入	11億9,280万 8千円
		支出	15億 853万8,819円
		補てん財源	3億3,519万 2千円
			3億2,383万1,606円

(消費税抜き)

会計名	資産の部	負債・資本の部
水道事業	固定	375億9,363万3,020円
	流動	41億7,656万9,110円
	計	417億7,020万2,130円
下水道事業	固定	1,364億8,426万3,589円
	流動	36億7,658万1,985円
	計	1,401億6,084万5,574円
病院事業	固定	310億7,636万6,825円
	流動	44億1,353万3,346円
	繰延勘定	4億9,499万3,002円
	計	359億8,489万3,173円
	負債	13億3,249万9,313円
	資本	404億3,770万2,817円
	計	417億7,020万2,130円
	負債	21億 750万7,425円
	資本	1,380億5,333万8,149円
	計	1,401億6,084万5,574円
	負債	17億9,855万1,455円
	資本	341億8,634万1,718円
	計	359億8,489万3,173円

(消費税抜き)

会計名	営業(医業)	営業外(医業外)
水道事業	収益	59億5,897万9,112円
	費用	59億 550万9,307円
	差引	5,346万9,805円
下水道事業	収益	53億9,791万3,045円
	費用	45億4,353万2,957円
	差引	8億5,438万 88円
病院事業	収益	192億5,869万4,490円
	費用	203億 865万7,055円
	差引	- 10億4,996万2,565円
	収益	2,432万 969円
	費用	3億8,001万7,052円
	差引	- 3億5,569万6,083円
	収益	13億 259万2,573円
	費用	19億2,622万1,900円
	差引	- 6億2,362万9,327円
	収益	14億6,711万9,141円
	費用	12億2,710万9,884円
	差引	2億4,000万9,257円

貸借対照表 (H19.3.31現在)

貸借対照表とは、企業が保有する全資産・負債・資本を記載し、それらの状況を示すことにより企業の財政状態を明らかにするものです。

固定資産の主なもの

土地、建物、機械、車両

流動資産の主なもの

現金預金、未収金、有価証券

負債の主なもの

未払金、預り金

資本の主なもの

自己資本金、借入資本金、剰余金

損益計算書 (H18.4.1~19.3.31)

損益計算書とは、一年度中に得たすべての収益とこれに対応するすべての費用を記載し、その差額(純損益)を表示することで企業の経営成績を明らかにするものです。この計算書を見れば、当該年度にどれだけの利益が生じたのか、また、どれだけの損失が生じたか分かります。

豊橋の教育

(3) 外国人との共生に向けて

地方分権の時代を迎え、各自治体では、地域に暮らす人々の要望に沿った特色ある教育が創られつつあります。豊橋市でも「特色ある教育」を積極的に推進しています。このコーナーでは豊橋の教育の取り組みを12回シリーズで紹介していきます。

豊橋市には現在1万9千人の外国人が生活しています。異なる歴史・文化を持つ人々と交流の輪を広げていくには、子どもころから一人ひとりが国際感覚を身につけていくことが必要です。また、外国人の子どもたちにとって快適な教育環境づくりに進めていくことも大切です。今回はこうした取り組みの事例を紹介します。



小学校での英会話のようす

英会話のできる豊橋っ子を目指して

小中一貫した系統性のあるカリキュラムで、効果的に英語によるコミュニケーション能力を伸ばします。また、将来国際社会で活躍でき、共生していくための資質・能力・態度の育成を図ります。

○英会話でのコミュニケーションを楽しむ小学生

すべての小学校で年間35時間の英会話の授業がスタートしました。3・4年生はスクールアシスタント(以下SA)と学級担任、5・6年生は外国人英語指導助手(以下ALT)と学級担任により年間20時間程度の英会話の授業を行います。それとあわせて英語の歌を歌ったり、ゲームやビデオ視聴など音声に親しむ活動を年間15時間程度行います。

○英語で思いを伝え合える中学生

英語の授業を1時間増やして週4時間とし、ALTを活用した英会話の授業を年間35時間程度行っています。

○研修と教材の充実

小学校の英会話授業では子どもが楽しく学べるように、学級担任やSA、ALT向けの研修を充実させ、指導力の向上を図っていきます。

現在、小学校向けの英会話の教材は各学校で用意することを基本としています。教育委員会でも教材バンクを設置し、教材の共有化を図り、各学校への支援を行っています。中学校向けには、豊橋を題材とした副教材の開発にも取り組んでいきます。

外国人児童生徒も豊橋市の担い手に

外国人児童生徒の数は、年々増加しており、定住希望者も増加しています。日本で生活していく力を身に付け、豊橋市民として次代の担い手となるように、さまざまな教育支援を行っています。

これらの支援の効果もあり、10年前に5割程度だった高校への進学率が、近年では8割程度まで増加しています。

○日本の授業に慣れるためのプレクラス

日本の学校での就学経験が無く、日本語が理解できない子どもを対象にした生活適応指導を行っています。岩田・多米・岩西小学校にあります。

豊橋市の外国人児童生徒数



日本語を学ぶ外国人児童

○外国人児童生徒を支える教育相談員や通訳・翻訳補助員、日本語指導や教育相談、通訳、翻訳などを行う専門の人が、外国人児童生徒が多い小・中学校に常駐しています。また、外国人児童生徒が少ない小・中学校には、定期的に巡回して学級担任などへの補助や支援を行っています。

○より多くの言語に対応するため登録バイリンガル制度を開始今年度からポルトガル語以外にも広く多様な言語に対応するため、通訳ボランティアを募る登録バイリンガル制度を開始しました。